
■ さろん | Mail News 2018/3/15 | #111 ■ 【読み物号】

ご案内不要の方はお手数ですがこのメールにそのままご返信ください。

哲学カフェ及び関連イベント情報をお送りします。みなさんの興味・関心の一助としていただくとともに、今後とも「さろん」を応援いただければ幸いです。

なお、このメールニュース掲載のコラム等は執筆者の個人的な考えを表したものです。会や専門領域における統一見解や事象を扱っているものではありません。予めご了承ください。

=====Vol.111 2018年3月15日(木)=====

さ | ろ | ん |
— | — | —

M | a | i | l | N | e | w | s |
— | — | — | — | — | — | —

<http://salon-public.com/>

(バックナンバーはHPからご覧いただけます)

<https://twitter.com/salontetsugaku>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

INDEX

| 【おしらせ】(3月期) ゆるカフェ/今月はおやすみです

| 【1】コラム/エッセイ

| ◇『「品をどう感じるのか」について振り返って想う』

| ◇『新しい成果と課題。』

| 【ご案内】「さろんラボ」企画を募集しています

| 【2】コトバをハーバリウムする

| 【3】さろんアーカイブの遊歩道

| 【4】読者からの特別寄稿/

| ・「さろん仙台ツアーの思い出」 hojas verdes さん

| ・「あっちこっち紀行 そのに」 くらち さん

| 編集後記

CONTENTS

【おしらせ】

(3月期) ゆるカフェ
今月はおやすみです

通称『ゆるカフェ』。年度末の棚卸しと店内改装のため今月は「おやすみ」です。
来月はまた普通に営業しますので、ぜひ遊びにいらしてくださいね。
「この会場でやって!」とか、「こんなテーマがいいです!」など、お気軽にお寄せください。

例によって例のごとく少人数で集まって、ゆったり考えたり感じたり聞いたりしています。
ゆるっと奏でる月イチのセッション、お気軽にいらしてください。

定員5名まで ※最少挙行人数3名
4月●日(●) 19:15 - 21:30頃
代々木近辺の喫茶店(申込者にご案内)
参加費100円(別途、注文した飲食費実費をお支払いください)

お申込み・お問合せ: salontetsugaku@gmail.com
(幹事: せりざわ)

【1】コラム/エッセイ

- ▽【「品をどう感じるのか」について振り返って思う】 一生
▽【新しい成果と課題】 セリンジャー
-

▽【「品をどう感じるのか」について振り返って思う】 一生

去る1月の弊社哲学対話では、品をどう感じるのかについて考えた。ここで考えた品とは気品や品位という意味である。品を感じる際には、周りに自己主張を押し付けない、ゆとりがある、穏やかな気持ちになる等の印象要素が挙がった。品を感じ方から分析して行けば、これら複数の印象要素へと因数分解できるというのである。逆に言えば、これら複数の印象要素が複合的でバランス良く配合され、協奏されるとき、そこに品を感じるというのである。

さらに筆者は思う。ある対象に品を感じる時、どうしてもその対象や作者が持つ精神性や内面にまで関心が向いてしまう。きっとその人は周りの他者と交わって気配りもするが、かと言って、周りの他者に自分の主張や存在を前面に出して押し付けたり、逆に周りの他者に流されるようなことは決してない。周りの他者を常に見つめながらも、同時に、自分自身を、自身の存在や孤独を見つめて考え続けている。自分とは何か、生きるとは一体どういうことかを凜として黙考し続ける。その佇まいに品を感じるのではないか。

品の感じ方を考えていたつもりが、人間の孤独、人間の存在や生きることについて思考は飛んでしまった。上述の哲学対話でも、途中で「自分とは何か?」という問いが挙がって皆で少し考えたが、

さらに深めることはできなかった。できるなら一見無関係と思われる疑問も一緒に拾い、呑み込んでみたい。そのときは言語化できずとも、後で考えが繋がるかもしれないと考えるからである。東京プリズンの主人公マリは述べる*1。「人は、自分が呑み込んだものになるのだ」。本稿も少し寄り道をしてしまったようである。

*1：赤坂真理著：「東京プリズン」

▽【新しい成果と課題】 セリンジャー

もし君がこの話をほんとうに聞きたいなら、僕がどこで生まれたとか、冴えない子ども時代はどんなだったのかとか、僕が生まれる前にうちの親がなにをしていたのかとか、そんなデビッド・コパフィールドみたいなくだらないことを知りたがるかもしれないけど、はっきり言って、そういうことは一切話したくないんだ。全然。なにも。第一、そんなこと話す僕自身が退屈しちゃうし、第二に、うちの親はそういう身内の話を話そうものなら二回は脳溢血を起こすに決まってる。そういうことにはすごく神経質なんだよ。とくに母親の方が。いや、うちの親は決してわるい人間じゃないよ。そうじゃなくて、とにかく神経が細かいんだよ。それにさ、僕としても、この話を僕が生まれた最初からここに至るまで全部丸ごと聞かせたいってわけでもないんだ。君に話したいのは、去年の暮から僕の身に起こった、個人的にはとても影響のあったできごとについてなんだよ。というのも僕の調子がいまいちよくなって、再活性のためにこのスクールに送られてくる前後の顛末なんだけど、ほんとのことを言うとおウルーの奴にだってあまり詳しいことは話せていないんだ。オウルーっていうのは僕のいちばんの悪友だけど、それでもいろいろあってね。

オウルーは今なんだか忙しくしてるみたいだ。去年の暮れに恋人に去られたオウルーはひどく落胆していたんだけど、最近はまだ持ち直したみたいだ。でもみんなで集まろうぜって言うのもちっともかけてきやしない。きっとそういう時期なんだろうと思う。これはなにもオウルーに限った話じゃないけど、みんなけっこうぎりぎりのバランスで毎日やり過ごしてるんだろうっておもうよ。「なにかしたいけどなにをしたらいいかわからない」っていうような気持ちを抱えてさ。「なにかしたい」と思ってるうちはまだいいんだよ。でもじぶんでも気づかないうちにそれが「なにかしなきゃ」って焦りに変わったりすると悲惨なもんだよね。いやなにもオウルーがそうだって言ってるわけじゃないよ。これは僕の話だからさ、つまりは僕自身がそうなんじゃないのかってこと。この間もいつも乗るはずの電車と逆方向に乗ってしまって、本に夢中になってたら気づくのに遅れるし、網棚に弁当箱を忘れてしまうし。地味にダメージ受けたとこなんだ。誰だって好きで間違えうわけじゃないよね。それでも間違えてしまうし、それでやっぱり落ち込んでしまうもんだよ。

知り合いにマシューっていう奴がいるんだ。いつも夜空を眺めてるような変わった奴なんだけど。旅行先でタクシーつかまえてホテルまで行くつもりが、間違えて自宅の住所を言っちゃうような、どこ見てんだかわかんないような奴。でもこいつがときどきドキッとするようなことを言うんだよ。「おまえって奴は独特の狡さがあるよな。自分の本音を言わずに仕舞っておいて、自分が一人前になって成功したらはじめてそれを言うような。失敗は見せないぞっていうような。おれから

すると信じらんないよ、そういうの」。僕だって鈍感じゃないからさ、不意にそんなこと言われたらどうしたらいいかわかんなくなるよね。その時は一瞬の戸惑いだと思ってたことが、後になって熱を帯びたみたいにジンジンと鈍く痛んでくると、僕にもどうしたらいいかわからなくなってくる。それからしばらくして、またマッシュと顔を合わせるがあったんだ。「こないだは言い過ぎたよ。悪かった」なんて言われてパブで一杯おごられたんだよ。珍しく。そこでマッシュに「要するにおまえって奴は、他人の期待に応えることで、自分の願望はなかったことにする。でも、今おまえがやるべきなのはその逆なんじゃないか」って言われたんだ。「そうかもね。そうなのかもしれない」そう答える以外に、いったい僕になにが言えたっていうんだろう。うまくものが言えないときってあるだろ？そんなとき君ならどうやってやり過ごすんだろう。こんど僕に教えてよ。

そうそう。このスクールの同僚にすごい奴がいるんだよ。ウェイっていう男。頭の中にスケベなことしか詰まってないような、いつも明るいお調子ものでね。あつげらかとスケベを前面に出してくる裏表のない奴。君の周りにもたいていそういう奴がひとりくらいはいただろ？みんなで飲んでいるときも、僕が驚くくらい自然に誰かを口説き始めてるんだよね。周りで見られててもお構いなしっていうか。でも、それで全体の空気を壊してるってわけでもなくて。なんていうか、どこまでも明るくて、じぶんは忠実なんだよ。あけっぴろげでさ。はじめてガールフレンドができたのはいつだったかとか、キスはどこでしたのかとか、あるだろ？そういうの。昔の僕だったらつまらない嘘をついてじぶんを大きく見せてごまかしてたと思うよ。でもウェイって奴は不思議なものでさ、相手を緊張させずにうまく懐に入りこんでくるんだよね。そういう奴だから憎めなくて、憎めない奴と一緒に飲む酒が楽しくなってくるんだよ。この僕が、大勢で酒を飲んでるなんて！って、この間じぶんで驚いちゃったよ。

君がこんな風に聞き上手でうれしいよ。僕のつまらない話もうんうんって聞いてくれるからさ。なんだろ気分がいいね。実際、ここしばらくの間いろんなことがあったんだよ。元からそんなにうまく喋れる方じゃないんだけど、それでもやっぱり、いざ話すとなると難しいよ。そんなんだから、僕が黙っているとつい「放っておいてほしいんだな」とか思われてしまって、結果的にますます口を閉ざすようなことになりがちで。でもこうして君がいてくれて実に感謝してるんだ。これはほんとうに。

とにかくね。僕にはさ、じぶんたちだけの開放的な部屋があつてさ、そこに僕や君みたいな心安くてどこかナイーブな奴らが集まってなんだか楽しそうに遊んでるところが目につかぶんだよ。二人や三人なんてもんじゃなくてその倍、さらに倍はいてさ。遊んでるようでもあるし、真剣に話をしてるようでもあるし、珈琲なんかも飲みながらさ。僕のやる仕事はね、誰かのマグが空になったらそこに淹れたての熱い珈琲を注いでやることなんだ。あるいは話し相手がいない人の隣に、けっしておしつけがましくなく、座っていてあげること。手持ちぶさただな、って感じるよりもずっと早く。わるくない場所だと思わないかい。こういうところが一つくらい持っていたらいいと思うんだよ。そして一日中、そういう場所でゆっくり本でも読んでたいんだ。そしたらきっと、君も、それから最近は忙しいオウルも、もっと気楽に遊びに来てくれると思うから。マッシュの台詞が耳から離れないんだ。「自分の願望に対して一步を踏み出す。そのために自分を変えることによって、新たな出会いを増やす」っていうのがさ。うん。今夜は僕の話聞いてくれてありがとう。君に聞いてもらえてよかった。また続きも聞いてほしいね。そしたら次は、君の話も聞かせておくれよ。

【ご案内】

「さろんラボ」ではみなさんのやる気とアイデアを募集しています♪

名称：【さろんラボ】

コーディネーター：【大村】

「さろんラボ」、常設しています。

このさろんラボではみなさんの「やってみたい」を核に、「さろん」を触媒にして、どんな化学変化が起きるかを試みる場所です。さろんラボは当面継続して設けていきます。

さろんの参加者の手で、以下の2つのイベントがうまれました。

【さろんラボ 001】 「あたまの中を散歩するてつがくカフェ」

<http://sanpo-tetsugaku.jimdo.com/>

【さろんラボ 002】 「哲学カフェ Ante-table/アンティ・テーブル」

<http://ante-table.wix.com/ante-table/>

既存の哲学カフェのカタチに限定せず、みなさんの中で温まっている関心ごとやご興味を添えて、どうぞお気軽に下記までご連絡下さい。みなさんとの新しい化学変化を、スタッフ一同心から楽しみにしています。

▽詳細はこちらまで

salontetsugaku@gmail.com (担当：大村)

【2】

コトバをハーバリウムする #29 (や)

本のコトバから

僕たちの最高のあこがれは、自分に権力を振りかざす人たちの一員になることだった。

——ヴィカス・スワラップ 『ぼくと1ルピーの神様』

人のコトバから

I would never wanna belong to any club that would have someone like me for a member.

私を受け入れてくれるようなクラブにだけは、入りたくないね。

——グルーチョ・マルクス

【3】

さろんアーカイブの遊歩道 #23 (楠)

カテゴリ：【さろん哲学 議事録】 第12回

テーマ： 「面白い、について考える」

開催日： 2011年8月13日

http://salon-public.com/wp-content/uploads/2013/01/salon_giji_12.pdf

さろん工房「面白い自己紹介をつくる」

開催日： 2011年10月30日

<http://salon-public.com/koubou/sakuhin/koubou01.pdf>

自己紹介が嫌いだ。

何度やっても何を言っているのか分からなくなる。

特に合コンの場合、他人に興味を持ってもらうために自己紹介をするのだけれど、「他人が自分のどこに興味を持つかなんて分かんねーじゃん」という疑問が消せない。

結果、差しさわりのないことをボソボソ話すか、自分が「これは面白がってもらえるだろう」という話が盛大にスベって終わる。「帰りたい」という気持ちだけがむくむくと膨らむ。

どんな場面であれ自己紹介はそれを聴くひとにとって面白いことが暗黙裡に求められている。そもそもどんな時に「面白い」と感じるのかも定かでないにも関わらず、である。予想に従えばいいのか、裏切れればいいのか、分からない。他人の解釈の枠組みなんて、予想しようがない。

でも、「どうすれば面白がってもらえるんだろう」と考えながら自分の何かを他者に差し出そうとする、この試みってすごく「コミュニケーションしてる感」がある。

立場も考えも異なる事だけが分かっている、でもどう違うのかは分からない。そんな他人に恐る恐る手を延ばすこと、それがコミュニケーションの本質だとするならば・・・僕は自己紹介をもっと楽しめるかもしれない。

【4】

読者からの特別寄稿／

- ・「さろん仙台ツアーの思い出」 hojas verdes さん
 - ・「あっちこっち紀行 そのに」 くらち さん
-

・「さろん仙台ツアーの思い出」 hojas verdes さん

月日の経つのは早いものだ。年が明け、仙台の地図を見る機会があった。
地図の上の広瀬川は印象的なカーブを描いている。今年の仙台への旅を思い出した。

出発は朝であった。青い空に白い雲が広がる車窓を眺めているうちに仙台に着いた。
早い。あつという間だった。先ず、震災遺構 仙台市立荒浜小学校へ向かった。
館内を見学。地元の方の体験を交えたお話を聞きながら荒浜地区のジオラマを見た。
震災前の町並みの再現なのである。屋上に行き周辺や海を眺めた。
校舎を出て陽ざしのなか、海岸まで歩いてみた。穏やかであった。
校舎を遺構として保存していく事は、時をそのままにしておくのではなく、これからの防災や生活、
安心、安全の為に時を進めていく事に繋がっていくのだろう、個人的にはあるがそう感じた。

次に、東北大学へと足をのびした。東北大学総合学術博物館の見学だ。化石、岩石等地球太古の標
本資料を学生の方の説明を受けたり質問したりしながらじっくりと見学する事ができた。市内循環
観光バスも走る広大な敷地で、初夏の一時を過ごした。

その後、さろん哲学の会場へと向かった。広瀬川を望むカフェのテラス席だ。
対岸の崖には、鳶だろうか、大きな鳥がその羽を拡げ悠々と飛んでいた。
木漏れ日が眩しい。解放感と共に対話の時間が過ぎるのは早かった。
宿では哲学ゲームに参加した。

翌日、市内を巡った後、せんだいメディアテークへ向かった。
館内のベンチに座りガラスの壁を通して大通りを眺めた。
前日からの旅の様々を思い出しながらゆくりと休憩する。
日々目まぐるしく過ぎて行く時間も今だけはゆっくりだ。
てつがくカフェに参加した。震災の事、安心安全を求める気持ちを想い、世代、立場、状況、違い
はあるけれども人々が集い話し聴く、その様な場の貴重さ、拠り所の大切さを実感した。

振り返ってみると旅の途上では、時や早さについて色々と考えていたようだ。
時は流れると表現されることがある。地図で見る広瀬川のカーブが描く曲線は、回り道をして、遠
回りして、時間がかかっても、海を目指す、水の道。忘れられない事や忘れたい事、体験した事、
何気ない事。沢山の記憶も時間を流れて行くのならば、薄れて行く早さも変わるように思える。
それが楽しい辛いに関わらず。川が流れるように時も記憶も流れて行くのだろうか。
旅を振り返った今は、そんな事をとりとめもなく考えている。

旅の土産に買い求めたみち乃くせんべいのその丸い形は微笑むが如く優しく、そして美味であった。

・震災遺構 仙台市立荒浜小学校

https://www.city.sendai.jp/kankyo/shisetsu/ruin_arahama_elementaryschool.html

・東北大学総合学術博物館

<http://www.museum.tohoku.ac.jp/>

・仙台市観光シティールートバス「るーぶる仙台」

<http://loople-sendai.jp/>

・「あっちこっち紀行 そのに」くらち さん

哲学カフェを含め、あっちこっちの面白そうな活動に参加・行ってみた記録です。

○『チェルフィッチュ 三月の5日間レクリエーション 名古屋公演』

2月17日(土) 愛知県芸術劇場 小ホール

演劇の何が面白いかといえば、私は「反芻」です。

観劇の帰り道、ひとりで牛のように、みたものを頭の中に戻ってきて、むしゃむしゃもぐもぐ、消化する。

ゆっくり自分の血肉にしていく感じです。

面白ければなんで面白いのか、つまらなければなんでつまらないのか。

演劇は特に反芻のしがいがあると感ずます。

映画や美術展よりも受け取っている情報量が多いのでしょうか。

『三月の5日間』は昨年9月の朝さろんの課題本だったので、先に小説を読んでいました。

舞台は、イラク戦争の始まるタイムリミットが迫り、反戦デモが起こっている2003年3月の渋谷。

円山町あたりのラブホで5日間を過ごすミノベ君とユッキーの話が中心です。

私は小説で読んだ時と演劇でみた時、その印象の比較をしようと思いついていました。

演劇になったことで面白くなっていた点は、話の曖昧さがより際立ったように感じられるところでした。

劇中では7人の役者が登場するのですが、ミノベ君役もユッキー役もいません。役者が誰として語っているのかよくわからないまま、ミノベ君たちの様子や渋谷の様子を語ります。そしてそのセリフも、伝聞のような、ナレーションのような、不思議な口調。繰り返される「○○なんですけど」というフレーズが耳に残ります。

さらに不思議なのが、役者の動き。くねくね動いたり、変なところで止まったり。

それが妙になまめかしくみえたりして、ラブホという言葉の意味に私が引っ張られているからなのか。意味があるのやらないのやら。終始曖昧な印象で、それがこの作品の魅力だと思いました。

そんな調子なので、世界で起きようとしているイラク戦争(パブリックな出来事)と、渋谷のミノベ君とユッキーのこと(プライベートな出来事)の遠近感もおかしくなっていく感じがします。

遠くで起きている大きな出来事と、近くで起きている小さな出来事。

並べてみたら、戦争とラブホの一室が同じ大きさで見えることがあるのだろうか。
この作品のどこにピントを合わせて、どこに自分を置いてみるのか。

こんなことを反芻しているうちに、私はこの作品が曖昧だ、曖昧だと思っているけれど
「私は私として語れているのかな」「人は言葉や動きに何を込めているのかな」という問いのタマゴ
がポロポロ生まれてきました。
もうちょっと練ったら、今度の哲学カフェのテーマにならないかしら。

反芻をするためにも、観劇はひとりで行くのが私のオススメです。

編集後記

メールニュース第 111 号をお届けします。

こんにちはフクロウです。
日が随分と伸びました。そして暖かくなりました。3 月も半ばですね。ホウ。

昨年の 6 月に青葉繁れる仙台へツアーを行いました。あれからもう一年近くが経とうとしています。今月で 7 年。ツアーでも訪れた震災遺構・荒浜小に詩の礫がしずかに降り注ぎ、“津波ピアノ”の音色が残響するようすがイメージされます。
本号では、さろん仙台ツアーの様子を振り返りながら、原点にある「東日本大震災」へと思いを馳せるご寄稿を読者から頂きましたのでご紹介しています。

もう一つ、3 月にまつわるご寄稿を頂戴しました。
元々の「三月の 5 日間」は、アメリカ軍が報復としてのイラク空爆を開始した、2003 年 3 月 21 日前後の混沌とし浮足立った日常のなかで、微妙に現実感がうしなわれていくような感覚（とそれへの抵抗）を同時代的に描いたお芝居でした。
今回の「リクリエーション」では、時代設定はそのままに、他方で 3.11 を経過した現在の視点も踏まえての見直しが行われているように感じられました。
なにが、どう、「リクリエーション」なのか。そこでなにが”再創造”され、そのことをとおしてなにが”再び問われ”ているのか――。

書き手の数だけ、さまざまな 3 月の風景が見えてくる貴重な寄稿でした。ありがとうございました。

さて。これを読まれているあなたの 3 月はどんな景色をしているのでしょうか。
出会いと別れがあり、また新しい年度に向けての支度もあり、桜の蕾が膨らむこの季節、みなさまにとってもおだやかで健やかな春をお迎えくださいませ。ホウ。

それではまた次号でお会いしましょう。ホウ。
編集：(フクロウ)

さろん | Mail News 2018/3/15

⇒次号 (4月1日発行予定)

さろん Mail News 第111号 / 2018年3月15日発行【読み物号】

編集・発行：さろん

salontetsugaku@gmail.com

<http://salon-public.com/>

<https://twitter.com/salontetsugaku/>

<https://www.facebook.com/salontetsugaku/>

- ◇ 「さろん」にお知らせいただいたお名前・メールアドレスなどの個人情報は、当会からのご案内のためだけに使用いたします。
また、ご本人の同意なく第三者への提供はいたしません。
- ◇ 「Mail News」の無断転載はご遠慮ください。転載ご希望の場合はご連絡願います。
バックナンバーはHPからご覧いただけます。
- ◇ 【Twitter】 <https://twitter.com/salontetsugaku>
- ◇ 【Facebook】 <https://www.facebook.com/salontetsugaku/>
- ◇ 【ホームページ】 <http://salon-public.com/>
 - 「さろん哲学」Web サイト <http://salon-public.com/tetsugaku/>
 - 「朝さろん」 Web サイト <http://salon-public.com/asa/>
 - 「さろん工房」Web サイト <http://salon-public.com/koubou/>
 - 「あるばか学校」blog <http://alpacagakkou.blog.fc2.com/>



"copyright (c) 2011-2018 さろん. All rights reserved."
